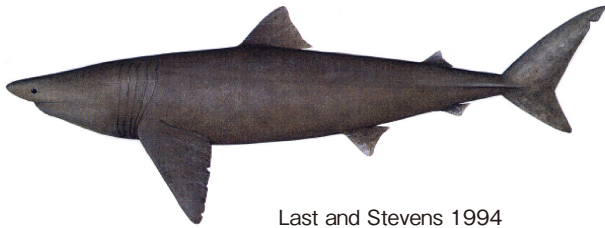


ウバザメ 日本周辺

Basking Shark, *Cetorhinus maximus*



Last and Stevens 1994

管理・関係機関

国際連合食糧農業機関 (FAO)
絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約 (ワシントン条約、CITES)

最近一年間の動き

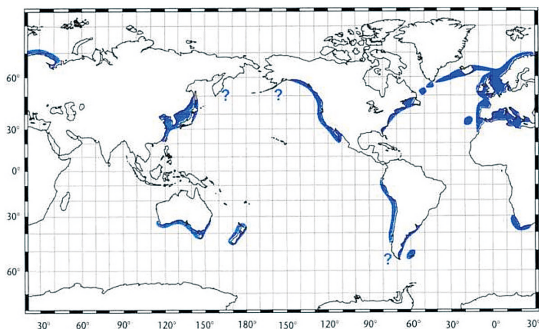
世界的には特に目立った動きは見られなかった。日本周辺での出現については、2011年に千葉と静岡で報告があったが、2012年及び2013年は報告がなかった。

生物学的特性

- 寿命：調査中
- 成熟開始年齢：雄6～8歳あるいは12～16歳、雌は調査中
- 繁殖期・繁殖場：調査中
- 索餌期・索餌場：調査中
- 食性：プランクトン、小魚
- 捕食者：調査中

利用・用途

鰭はフカヒレスープの原料、皮は皮革製品、肉は生肉や干し肉として人間の食用、家畜飼用のフィッシュミール、肝油は工業用、化粧品用など。



ウバザメの分布

漁業の特徴

沿岸の定置網などに偶発的に迷入するが、一部は水揚げされて市場に上がるものの、放流される個体も多いため取り扱いがばらばらであり、公式な漁獲統計はない。肝臓に利用価値があり、わが国では1960年代後半から1970年代にかけて、三重県波切で突きん棒により漁獲されていたが、最近はずっと行われていない。

漁業資源の動向

1967～1978年の12年間に1,200尾以上が水揚げされたので年間平均約100尾であり、その内訳はわかっている年で、1975年約150尾、1976年約20尾、1977年9尾、1978年6尾であった。ただし、大量の来遊は30年周期で起こるとい説もある。近年は稀に定置網への迷入が報告されるのみである。

資源状態

三重県波切で1960年代後半から1970年代前半に年間100尾程度の漁獲(突きん棒による)があった後は、ウバザメを主目的とする漁業はなく、現在は定置網への偶発的な迷入があるのみである。1960年から1970年代にかけて三重県波切周辺に来遊したウバザメを年間およそ100尾近く漁獲していた頃に比べれば、来遊量は明らかに減少しているであろう。しかし、それ以前にも継続して大量に来遊していたわけではなく、大量の来遊は30年周期で起こるとい説もある。1970年代後半以降は、積極的に漁獲する漁業はなく、資源を定量的に分析できる資料はない。全国の定置網の偶発的混獲の記録等があるのみである。

管理方策

現在、我が国に本種を目的とした漁業はなく、積極的な漁獲努力は行われていないので、特に管理方策を策定する必要はないと考えられる。なお、英国はウバザメが絶滅の危機にあるとして、2002年のワシントン条約第12回締約国会議で附属書ⅢからⅡへの修正提案を行い、採決の結果3分の2以上の得票を得て可決された。

資源評価まとめ

定量的に分析できる資料はない。

資源管理方策まとめ

定置網への偶発的な迷入等に関する継続した情報収集方法につき検討。

ウバザメ（日本周辺）の資源の現況（要約表）

資源水準	調査中
資源動向	調査中
世界の漁獲量 （最近5年間）	調査中
我が国の漁獲量 （最近5年間）	年に1～2個体程度が迷入